

1年1組～3組が6月3日(金)に、4組～7組が6月10日(金)にフィールドワーク「ブラ☆きなし」に出かけました。

香川大学の長谷川修一先生からいただいた「鬼無はなぜ世界一の盆栽の里になったのか?」というお題を解明すべく、ジオ・ガイドさんと一緒に、学校周辺と本津川河畔の地質・地形を観察しながら歩きました。また、中西珍松園では盆栽の世界的人気の理由や今後の販売戦略、栽培方法について学びました。

見慣れた通学路が違って見えてくる、貴重な経験になりました。



山口1号線沿いの土壌は白っぽくて水はけのよいことを、長谷川先生が教えてくれました。



ジオ・ガイドさんが、本津川の治水について説明してくれました。KSB とケーブルテレビが取材に来てくれました。



中西珍松園の盆栽畑。今から盆栽になるこれらの小さな松は、50歳だそうです。



ときどき氾濫が発生し大被害が起る本津川。今日はとてもきれいです。川の周辺の土壌は粘土質で、水田が広がっていました。



中西珍松園の美しい松たちに囲まれて、園主の話を聞きました。樹齢 100 年を超える松もたくさんありました。